

惜

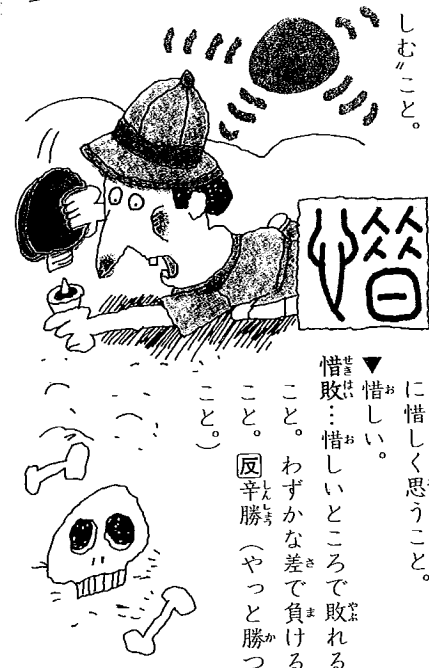
おん セキ
む おしい・おし

11画
ハ 忄 忄 忄 忄 忄 忄 忄 忄 忄 忄 忄 忄

▼「いとじゆく」
▼なごりおしく思う。
惜春：春の過ぎ行くのをなごりおしく思うこと。
惜別：別れをなごりおしく思うこと。【用例】惜別の情に耐えがたい。

【なりたち】昔(むかし)と、心の意味の「忄」の会意形声字。過ぎた昔の事をなつかしみ、なごりおしく思う「心」を表した字。「いとおしく(惜)しんで大切に(する)」こと。また、「おしむ」こと。

▼惜しんで大切に(する)。
愛惜：惜しんで大切に(する)こと。
▼惜しむ。
哀惜：悲しみ惜しむこと。
痛惜：痛く惜しむこと。非常に惜しく思うこと。
▼惜しい。
惜敗：惜しいところで敗れること。わずかな差で負けること。【例】辛勝(やつと勝つこと)。
▼惜しい。



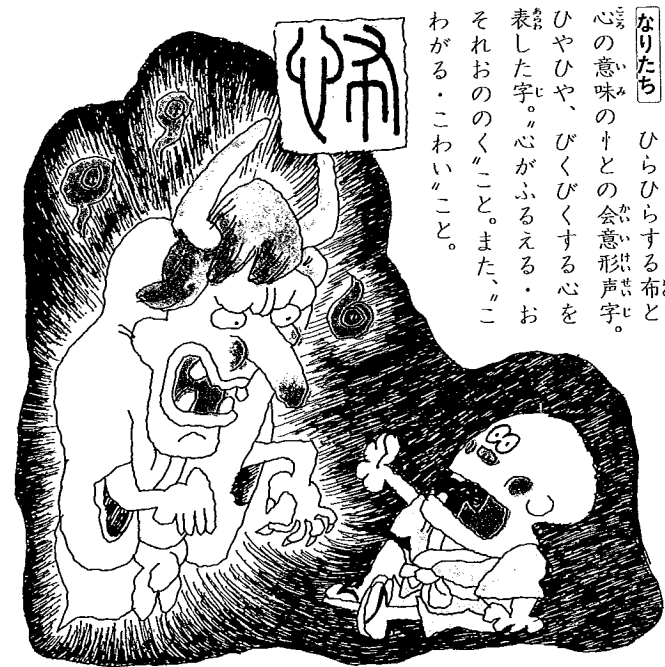
怖

おん フ
こわい

8画
ハ 忄 忄 忄 忄 忄 忄 忄

▼「いとじゆく」
▼恐れおののく。恐れる。
恐怖：非常に恐れること。また、大変なこわさ。
恐怖症：ちよつとした事にも恐怖を感じる症状。【例】高所恐怖症

【なりたち】ひらひらする布(か)の意味の「忄」の会意形声字。ひやひや、びくびくする心を表した字。「心がふるえる・おそれおののく」こと。また、「こわがる・こわい」こと。



惰

おん ダ

12画
ハ 忄 忄 忄 忄 忄 忄 忄 忄 忄 忄 忄 忄

▼「いとじゆく」
▼だらける。なまける。
怠惰：だらけたり、なまけたりする様子。
惰気：なまける心。
惰眠：なまけた眠り。【用例】眠をむさぼる。
▼だる。
怠惰：だるること、なまけること。
遊惰：遊んでなまけること。
▼そのままの状態(じょうたい)でいること。
惰性：①外(そと)からの力が加(く)わらない限り、今の状態(じょうたい)を保(たも)つこと。②物(もの)の性質(せいしやう)。慣性(かんせい)。【用例】慣性(かんせい)。
▼今(いま)までの習慣(じゆんぐわん)。【用例】惰性的(じゆうていせい)な仕事(しごと)ぶり。

【なりたち】祭祀(まつり)に用(もち)いた肉(にく)の余(あま)りを表(あらわ)した惰(じゆ)の意(い)味の音(おと)と、心の意味(いみ)の「忄」の会意(かいい)形声(けいせい)字。祭祀(まつり)が終(お)わって余(あま)り肉(にく)を食(た)べる「緊張(きんじやう)の解(と)けた心(こ)を表(あらわ)した字。『だらけた心・おこたたり』。



恒

おん コウ

9画
ハ 忄 忄 忄 忄 忄 忄 忄 忄

▼「いとじゆく」
▼いつも変わらない。
恒常(こうじやう)：いつも変わらないこと。
恒例(こうれい)：行事(こうじ)などが、いつも決(きま)まって行(おこな)われること。【用例】恒例(こうれい)の秋(あき)の運動会(うんどうかい)が近(か)づく。
恒星(こうせい)：自分で光(ひかり)を出(だ)し、天(てん)球(きゅう)上(じやう)での互(たが)いの位置(いち)を変(か)えない天(てん)体(たい)。

【なりたち】旧(きゅう)字(じ)体(たい)は恒(こう)。月(つき)が常(つね)に空(そら)を運(う)行(こう)して止(と)ま(な)ないことを表(あらわ)した互(たが)いと、心の意味(いみ)の「忄」の会意(かいい)形声(けいせい)字。常に(つねに)変(か)わらない心(こ)という意(い)味の字(じ)。「一定(いつてい)不(ふ)変(へん)(いつともきまつている)・永(えい)久(きう)」。

